第1回安佐市民病院跡地活用検討協議会議事録

1 日 時 平成27年12月3日(木) 午後2時～午後3時50分

2 場 所 安佐北区役所4階講堂

3 出席者(五十音順(市職員を除く)、敬称略)

岩重 守(安佐北区コミュニティ交流協議会副会長)

大島 正彦(安佐北区コミュニティ交流協議会会長)

尾田 豊機(安佐北区コミュニティ交流協議会副会長)

中平 吉子(安佐北区コミュニティ交流協議会副会長)

坊 聡彦(可部地域町内会自治会連絡協議会幹事)

松井 修(可部地域町内会自治会連絡協議会幹事)

向井 文武(安佐北区コミュニティ交流協議会副会長)

阪谷 幸春(広島市企画総務局企画調整部長)

児玉 尚志(広島市安佐北区役所副区長)

4 議 事

- (1) 座長の選任
- (2) 安佐市民病院跡地の活用方針の検討について
- (3) 意見交換

5 議事内容 以下のとおり。

< 開 会 >

事 務 局 定刻となりましたので、ただいまから第1回安佐市民病院跡地活用検討協議会を開催いたします。

私は本日当座の司会を務めさせていただきます広島市企画総務局のコミュニティ再生担当課長の杉山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会に先立ちまして、企画総務局長から一言御挨拶を申し上げます。

企画総務局長 今日は皆さんお忙しい中、御出席いただき、また、本協議会委員の就任を快く引き受けていただきましてありがとうございます。

また、平素から、本市行政の推進につきまして御支援・御協力を賜り、重ねてお礼を申し上げます。

さて、老朽化が進み機能強化が求められております安佐市民病院について、先の9月市議会で、高度急性期医療などの主要な機能については荒下地区へ、それから日常的に高齢者の皆さん、地域の方々の受診をしていただく機能については、現在地にあります北館を活用して、引き続き残していくという方針が決定したところでございます。

このことに伴いまして、病院の主要な機能の移転によって生じます跡地につきま

して、この11月8日に市長が説明会で説明させていただきましたけども、ここに導入すべき機能、土地利用の方向性につきまして検討する必要があります。

このために本日、協議会を設置いたしまして皆さんにお集まりいただいたところでございます。

実際に病院の移転が終わって、この跡地を活用するのは平成35年くらいから、もう少し時間がございます。この時間をしっかり活用して丁寧な事業を行って、地域の皆さんの期待に応えられるような、そういった跡地利用をしていきたいと考えています。

その跡地利用の検討をしていただくうえで二つほど重要な点があるかと思えます。

一つは、現在の病院の周辺の方々は、病院が移転することによって、地域が寂れるのではないかとといった不安、あるいは御心配を抱えられていらっしゃるのではないかと思います。そのためには、今以上に地域を活性化していく、そういった土地利用が望まれると思っております。

もう一つは、今年の7月に可部の自治連の方から跡地活用について提言をいただいています。これについてもしっかり受け止めさせていただきたいと思えます。

そうしたことを考え合わせましたときに、跡地活用の方針を考えていくにあたりましては、まずは地域の実情に詳しい地元の皆さまの御意見をしっかりお聴きしたいと考えています。

したがって、そういう考えからコミュニティ交流協議会の会長、副会長の方々、それから地元の可部自治連から推薦をいただいたお二人の方に委員就任をお願いした次第でございます。

これまで地域の皆さまが培ってこられました豊富なまちづくりの経験、そういったものをもとに、既に可部自治連さんに実践していただいていますけども、「自分たちのまちは自分たちで創る」という考え方にそって、地域の実情を踏まえた忌憚のない御意見を皆さまから頂戴できればと思えます。

そういったことをお願いしまして、私の挨拶とさせていただきます。

どうぞ、よろしく願いいたします。

事務局 それでは本日は第1回目ということですので、議事に先立ちまして今日出席の委員の皆様方からお一人ずつ簡単に結構ですので、自己紹介をお願いします。

委員の名簿の順で大変恐縮ではございますが、岩重委員から順にお願いします。

岩重委員 白木地区の自治連の世話をしています岩重でございます。何分まだ未熟でございますので、皆さんの御協力を得て、そして頑張っていきたいと思えます。

よろしく願いいたします。

大島委員 可部町の自治連の会長、安佐北区コミ協の会長をしております亀山学区の大島です。ついでに申し上げますと、電化延伸がなされる1.6kmのJR可部線利用促進同盟会の会長をしています。合わせて、病院の跡地、そして新しいところが活性化できるように頑張っていきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

尾田委員 安佐地区の自治連の会長をしております尾田と申します。あさひが丘の連合自治会の会長を仰せつかっております。

あさひが丘というところは大きな団地でございますけども、現在は少子高齢化が非常に進んでおり、私共の団地にも問題が沢山ございます。これを機会に安佐北区全体の問題として捉えていきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

中平委員 コミ協（安佐北区コミュニティ交流協議会）の副会長をしております中平でございます。安佐北区の地域女性団体連絡協議会の会長をしております。

女性会の皆さんにも多少意見を聞いて来ておりますので、後からお話したいと思います。よろしく申し上げます。

坊委員 可部地域町内会自治会連絡協議会の幹事をしております。また、大林学区の自治会の会長をしております坊と申します。可部地域から2名ということで出席させていただきました。よろしく願いいたします。

松井委員 可部地域町内会自治会連絡協議会の松井と申します。担当学区は可部南学区です。北館のこれからの医療の充実とともに、跡地は大変利便性の優れた場所だと思います。

地元可部南学区にこだわらず、可部地域、まして広域的な県北西地あるいは島根にまたがる地域の人々を呼び込めるような十分な利便性のあるところだと思いますので、皆さんとともにそうした活用を考えて行きたいと思っております。一つよろしく申し上げます。

向井委員 高陽地区の自治会連絡協議会の会長をしております向井でございます。

こうした病院の跡地の問題は、やはり可部が一番中心となっておりますが、やはり、非常に地の利の大きいところでもあります。そして、今の安佐北区全体、あるいは近郊が本当によくなっていくんだと、誰もが安佐北区に住んでよかったなと思えるような拠点づくりは非常に大事なことであろうと思っております。一つよろしく申し上げます。

阪谷委員 先ほど市を代表して御挨拶いたしました企画総務局長の岡村のもとで企画調整部長を務めております阪谷と申します。

今日は、初めての協議会で、しかもこのように公開で行われていますので、私も少々緊張しております。この跡地協議会では、今、委員の皆さまからもございましたように、やはり安佐北区の未来のまちづくりに繋がるような、そういったようなお話を是非していただきたいと思っております。普段どおりざくばらんにお話をさせてもらいたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

児玉委員 安佐北区の副区長をしております児玉です。今、阪谷部長の方からもありましたように、普段どおり地に足の付いた議論をしながら、本当に素晴らしい安佐北区づくり、広島市に貢献できるような、みんなの幸せが一つでも二つでも前に進めるようなそんな議論をさせていただければと思います。どうぞよろしく申し上げます。

事務局 （事務局職員紹介）

事務局 それでは企画総務局長の岡村でございますが、他の用務によりここで退席させていただきます。

それでは、議事に入らせていただきたいと思っております。

最初の議事でございますけども、まず座長の選任です。恐れ入りますがお手元の参考資料1を御覧ください。参考資料1に協議会の開催要綱の第4条がございますが、座長に関する規定を設けています。

この協議会の委員の互選により座長を1名置き、この座長が会務を総理する、いわゆる司会・進行を務めるということで整理をしていますので、まず、議事として座長の選任をしていきたいと思っております。

委員の皆様の中で、どなたか座長に立候補される方、あるいは推薦をされる方等がいらっしゃいましたら、挙手でお願いします。

尾田委員 私としましては、可部自治連の会長をされている大島会長は、可部の提言書から始まりまして、いろいろなことに関して勉強されていますし、また、いろいろと御苦勞をされていると思いますので、大島会長を推薦します。

事務局 ただいま、大島会長を座長にという推薦の声がありました。その他にございますでしょうか。

(異議なしの声あり)

事務局 それでは皆さんよろしいでしょうか。

(拍手)

事務局 それでは大島委員に座長をお願いしたいと思います。
まず、最初、座長になられた大島座長の方から一言御挨拶をいただきたいと思います。

大島座長 今、座長ということで御指名があり、挨拶をということですが、この会がスムーズに運営できればと思っています。

安佐市民病院の問題に関しても長いこと議論を重ねてきたわけで、可部の自治連の会長をしていた関係上、一昨年ぐらいからずっとこの問題に取り組んで、昨年の7月24日に第1回の提言書を出してから、安佐市民病院の移転ありきではなく、可部のまちをどうしていくべきか、少子高齢化、人口減少の中の歯止めをかけるためにはどうしたらいいかということから、まず議論を始めたわけで、その中で、先ほども少し言いましたように、JRの電化延伸がなされるというチャンスと病院の建替えというチャンス、我々はそれを千歳一遇のチャンスとして捉えてずっと活動をしてきたわけです。

病院の問題というのは、その建物が老朽化していることとか、狭くなっていることとか、そういう切実な問題であったために可部町の中でも非常に議論がなされたわけです。

提案したときもそうでしたが、まちづくりに関しては我々の提案が全てよかろうという中で、病院については可部に7学区あるうちの5学区が賛成、2学区が現在地という構図でずっときたわけです。

その中で8月20日の災害を受けて、もう一度、可部のまちづくり、可部のまちづくりと言いながら広島市の北部の拠点である可部をどうしたらいいかという、これは安佐北区全体のことであるという形をずっととってきました。

そして、その提言書を出して、やはり病院の問題も、一刻の猶予もならないという状況には変わりはないという考えを我々は持っていたわけで、何とかこれを打開するために、仮に安佐市民病院が移転した場合の跡地活用はどうであろうかというテーマで、可部の7学区の中でアンケートを取った結果を7月30日に再度市長さんに出したわけです。

この提言書に基づいて市長が判断されて、1か月後の8月29日に安佐北区での説明会が行われました。

分化整備案として承認され、その分化整備案を受けて、今日我々がこうして一つの協議会をつくって委員になって、私が座長という形でさせていただきます。これ

から約半年間くらいかけていろいろな皆さんの意見を聴きながら、まとめてというよりは、出したものを行政の方で調査されて、また報告すると、こういう議論になろうと思います。是非、活発な意見を出していただきたいと思います。

その中で、お願いしたいのは、個々の意見もあろうかと思いますが、しかし、地域の代表として出ているから、地域の意見を集約したものをこの協議会で出していただくというのが一番ではないかと思っています。

万が一に、我々の規約に反するというのは失礼ですが、合わないような場合には、協議会でいろいろと審議していただいて、どうもそういう発言は不適格であるというふうになれば、委員を辞職してもらおうということも視野に入れて、我々自身にそういう強い気持ちを持ってやっていかなければ、この跡地活用ということも難しいのではないかと考えています。是非そういうことで御協力をお願いしたいと思います。

それと、本来ならたくさんの傍聴者がおられると思ったのですが、おられません。やはり委員の方以外の発言等々は遠慮していただきまして、我々の議論がスムーズにいきますように、報道機関の方、その他の方も御協力をいただきたいと思います。そういう形で進めさせていただきます。

何分にも緊張していますが、しっかりとやっていきたいと思っています。

いずれにしても安佐市民病院跡地活用検討協議会が、進行して、やはり最大のもを市長さんに出していこうという思いでやっていきますので、委員方々の御協力を一つよろしくをお願いします。

事務局 ありがとうございます。それでは、座長の最初の仕事として、先ほど御覧いただいた要綱では、座長不在時の代理を座長が指名をするという規定になっています。まず、最初に、座長の方からのどなたか代理になる方の指名をお願いしたいと思います。どうでしょうか。

大 嶋 座 長 最初の自己紹介にもありましたように、やはり跡地活用という可部に近いということで、高陽の向井委員をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

事務局 ただいま座長から御指名がありました。よろしいでしょうか。

向 井 委 員 ただいま御指名をいただきました向井でございますが、はたして、座長の代理が上手く務まるかどうか疑問に思っておりますが、やはり可部と高陽というのは近くでもありますし、そしてお互いに、人口的にも逼迫しているという状況の中で、安佐北区全体を見た中で、高陽がどういう方向で地域づくりをするかということ、そして安佐北区全体の中でということで、力にはあまりならないかもしれませんが、一生懸命務めさせていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

事務局 ありがとうございます。それでは、これからの進行は座長をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

大 嶋 座 長 それではですね、議事の(2)安佐市民病院の跡地活用方針についての検討についての説明を事務局の方からお願いします。

事務局 (「安佐市民病院跡地の活用方針の検討」について説明)

大 嶋 座 長 ありがとうございます。今から各委員の方に、今の説明の感想と申しますか質

問等をいただきたいと思いますが、その前にちょっと分かりにくかったということがあれば、まず最初にお聴きしたいと思います。

大体今の説明でよろしいでしょうか。

基本的には、昨年の提言書を元にして説明されているようです。

それではないようでしたら、今の説明に対して、第1回ということでもありますので、こちらから指名させていただきますので、5分以内程度で話していただければと思います。

可部の地元である坊委員から一つお願いします。

坊 委 員

今、市の方からの説明をいただいた、あるいは座長の方から冒頭御説明いただいたようなことですが、我々は可部のまちづくりを考える上で、一番最初に考えたのは、人口減少について大変危機感を感じました。

その中で可部線の電化延伸、そういったことが現実のものになると、それに加えて安佐市民病院の移転問題も起きましたので、やはりこれは千載一遇ということをや座長がおっしゃいましたが、私共もそれを本当に真面目に考えようということで、そのことについては7学区一致した考え方になっています。

ただ、部分的には思うようにいかなかったもので、冒頭にありましたように、5学区と2学区という分かれ方をしましたが、最終的に決着をいたしまして、この件に関してはもうノーサイドでいこうと、これからはまちづくりにまっすぐ進むんだということも前回の会議でも7学区一致した考え方を持ちましたので、そのことについての引け目はないものと私は信じております。

御覧のとおりいろんな資料を出していただきましたが、一番高陽地域からみても、あるいは可部地域からみても非常に利便性の高いところ、あるいは道路交通網の整備とかそういうこと等々考えると、安佐地区あるいは白木地区とも非常に交通の便、要所のところにあるということで、これを上手く活用しない手はないというふうに考えています。また、市長がよくおっしゃる周辺も含めた200万人都市圏構想ということで、周辺市町を含めたまちづくりということですので、是非とも北の玄関口として整備をし、安佐北区を活性化していくと、あるいは安佐北区の元気さを見せつけるという意味で頑張っていかなきゃいけないだろうと思います。

そういう意味では、私共の出したこのまちづくり構想は、3回にわたって出していますが、たたき台にさせていただければ、非常に私共もやったかいがあったというふうに思っています。

それで2回目（の提言）は、あまり触れられておりませんが、災害に強いまちづくりということで、災害に関して提言をいたしました。昨年8・20の災害を受けたものとして、過去の歴史を遡って、提言書に入れたつもりでございます。

3回目（の提言）は仮にという言葉が付いておりますが、移転した場合のということで、これもいろいろな議論、苦渋の決断もありましたが、我々のたたき台をより有効なものにさせていただくように是非ともお願いできればと思っています。以上です。

大 畠 座 長

それでは、次に安佐町の尾田委員お願いします。

尾 田 委 員

安佐地域から見たらちょうど場所的には遠くなりますが、私の私見ですが、いろいろ案はあろうかと思っています。その中でやはり現在ある民業を圧迫するような施設であれば、逆に地元の方々が新しい施設によって廃業せざるを得ないというふうなことが考えられるのではないかと思います。

そういった意味で、いわゆる民間業者を主体にするのか、それとも公共性のある、例えば広島市、行政が主体となるのか、やはりその辺のところをはっきりしないと、

いくらいい案が出て、民業を圧迫するようでは、逆に跡地は活発になるけども、その他が寂れてくると、極端に言えばシャッター街みたいな商店街がよく出てますが、そういう形が可部地区で起こらないように、そういうことになればいくら跡地が活性化しても、可部全体としては困る人も出てくるんじゃないかと、私個人の意見ですが、このように思います。以上です。

大 晶 座 長 はい、ありがとうございます。それでは高陽の向井委員お願いします。

向 井 委 員 こうした跡地利用については、可部がしたいということで計画しておられることから何も安佐北区全体でというようなことでなくてもいいのではないかと考えていました。

しかしよく考えてみますと、やはり安佐北区全体でのまちづくりということで、先ほど尾田委員から話のありました、民間主導でやるのか、あるいは行政主導でのまちづくりと、ここらあたりがやはり根幹になってくるであろうとっております。

私も高陽のまちづくりをどういうふうにするか考えていますが、市長さんは（安佐北区においては）可部と高陽の二つを拠点としますよと言っておられますので、この二つの拠点がうまく機能できるような、そして安佐北区全体がいい方向に向かっていくことを望んでいます。

ただ、具体的には、まだ私の方も、こんなまちづくりをしてみたいというようなところまで思いがまだありませんので、今ここでの発表はちょっと差し控えさせてもらいたいと思っております。

ただ、言えることは、やはり可部が今まで中心で、拠点というところだったので、これからの地域づくり、まちづくりでは高陽はどういうふうな方向を市の方は考えておられるのかというようなことも考えた中で議論を進めていきたいというふうにお思っております。以上です。

大 晶 座 長 はい、ありがとうございます。それでは女性を代表して中平委員お願いします。

中 平 委 員 先ほどのアンケートの回答状況ですが、送付先があまりに数が少ないと思えました。もっとたくさんの方の数をアンケートをとっていただきたいなということを最初に感じました。

それで、私も役員にいろいろ聴きまして、どういう人が対象でその跡地を利用する、区民か広域かというのが先ほど出ていましたけど、そういうこととか、どういう目的かということなんですけど、1点は賑わいの場、いわゆる商業施設、県内の産品が購入できるような商業施設が欲しいと言われるんです。安佐北の地産地消もありますけども、例えば、この安佐市民病院跡地で倉橋のみかんが買えとか、例えば、そういう県内の産品が購入できるような商業施設はどうだろうかというのをおっしゃった。

それから憩いの場ですが、賑わいと憩いと学びの場というのを考えてみました。

憩いの場としては、公園ですね、公園は、私が思うに屋外のコンサートができるような公園を作っていただきたいなというのがあります。

それから市民ギャラリー、文化・美術館が欲しかったんですけど、美術館はちょっと大変なので、市民ギャラリー、安佐北区民ギャラリーではなくて、広島市民ギャラリーで、絵画が楽しめるというか、そういうことを考えてみました。

それと小ホールですね、今、安佐北区民文化センターに大ホールがありますが、小ホールが欲しいなと思えました。

あとは学びの場としては、小ホールができれば学びの場も可能になると思ったんです。地元の方が気軽に、手軽に楽しめる場所というのを考えてまいりました。以

上です。

坊 委 員 我々のアンケートは、たくさんの人にお願ひしたかったのですが、各団体長に取ったんです。

各団体長に、その組織の中で意見をまとめてくださいねという形にしました。本当は市民の方にたくさん取りたかったのですが、プライバシーの問題で名前や名簿等を把握するのが難しいことから、団体長さんにお願ひをして、団体の方でまとめていただきたいという出し方をしたものですから、数が7学区の各団体、PTAとか老人会とか自治会長とかを含めて、そういうもので出したということでございますので、ちょっと補足させていただきます。

中 平 委 員 これはちょっと少なすぎると思うんですね。

坊 委 員 時間として、議会の議決までにある程度出したいということで、ちょっと急いで作ったものですので、万全とは思っていませんが、一応、我々の地域の方の、各団体長の意見を、各会員の方に伺ってもらってまとめていただければということで出したものです。

大 島 座 長 1回目ですからいろいろなことが出てきます。また個々には話をさせていただきます。アンケートの取り方、あるいは等々あります。そこらはまた。それでは白木の岩重委員。

岩 重 委 員 白木の方は、まだ会長さん等を集めて検討会をやっていませんので、ここで何にもちょっと言えませんが、私個人としては、やはりこの安佐北を中心とした可部地区でございますので、この安佐北の全体の中心になるような、公園とかイベント会場とかいうのはあったらいいなというように思います。

この北部にはそういうのがあまりないので、人が寄っていただくような、皆さんが子どもさんを連れてきて、ゆっくり半日でも1日でも有意義に楽しんで帰れるような場所が望まれているのではという気がします。

無理に安佐北だけでなく、安芸高田市の方からでも、30分、1時間ぐらいで来て、半日でも楽しく遊んでいただけるような可部のまちにさせていただきたいというように思っています。

大 島 座 長 はい、ありがとうございます。それでは、今回の跡地に一番近い可部南学区の会長であります松井委員お願いします。

松 井 委 員 今日は、初会合ということで具体的にこういうものがということまでは提言できませんが、基本的にこの安佐市民病院の跡地の概要についてとありますが、検討対象区域というのが点線で結ばれています。

出入りが青い矢印で示されているような気がするのですが、検討対象区域というのは線引きで区切って、その面積が2ヘクタールなのか、あるいは出入り口については新しい可部大毛寺線、高陽可部線のアクセスを考え、また、根谷川の土手道路は有効に使われているので、その辺の在り方も考えながら動線で結んでどのような分割した土地になるのかも踏まえて、どんな施設が収まるのかということを考えていきたいと思います。

(資料の検討の視点の) 2番目のホールや図書館等がある施設とか、看護系・医療系を持つ学部を持つ学校とかいう視点と1番目の病院周辺地域をどう元気にするかということと、あるいは3番目のさらに広域的な県北西部にもかかった、あるい

は広域的なところにも寄与するような機能ということも考えると、可部地域からの提言が全部に収まるようなところもあるわけですね。

そうすると、これから考えていく上ではいろんな視野でまとめるということにかかってくると思います。

この有効の土地が2ヘクタールと言いながらも、北館の玄関の位置も考えたら、この敷地は医療施設がある以上は融合したような施設も考えていくべきではないか。そのことも念頭において、いかなるものがここにできたらいいのかということも考えてみたいと思います。

いずれにしても、そうした細部にわたった敷地の計画等も見つめながらじっくりと考えていきたいと思います。

大 畠 座 長

私も委員なので一言。

やはり提言したものをそのまま作るというのもあろうかと思えます。

この提言書を出して、どういうものを出したのかと結構いろんなところから聞かれます。今回の分化整備案で一番関心があるのは、新しい病院として最新鋭の医療機能を備えたものができるということは我々理解しておりますし、一般的な診療ができる病院（北館）が残って、その他の跡地をどうするかというのが今回の議論の大きな柱になる。ですから、ここでは1つに絞り込むというような作業は、必要ないのではないかと思う。いろんな意見が出てある程度筋道をつけていくということになろうかと思う。

冒頭にも言いました人口減少・高齢化ということで非常に危機感を持っています。会合でよく言いますが、ある機関が広島市の8区の中で20年後くらいに（20～39歳の女性人口が半減し将来的に）消滅するのは安佐北区じゃないかと言われてます。その歯止めをかけるために今回のこの提言書をまとめて出しました。一番人口減少に歯止めをかけるのは、子どもさんが生まれて、そこに若い者が住みつき、雇用が促進できるということになる。

跡地活用にもそういうものが必要じゃないかと思えます。

例えば、今言われたように地産商品がそこで販売できるとか、小河内の方に地域おこし協力隊が入りました。そうすると小河内の人口が1人増えたということになります。単純かも知れないがそういう考えを持って、跡地を活用して、跡地にいろんなものができたことによって、その周辺に働く人が住むということになればいいんじゃないか。

そういうことを思いつつ、今回の委員を受けて、座長も受けたわけですが、議論し尽くすということは無いかも知れませんが、いろんな意見を出していただいてそれをまとめていこうと思っておりますので一つ御協力の程、お願いします。

それでは、市役所の方から阪谷委員お願いします。

阪 谷 委 員

実は私、この4月から企画調整部の方に参りまして、ちょうど昨年度2回ほど提言を可部自治連の方から出していただいて、書類としては見てはいたしましたが、今日、改めて座長さん、あるいは委員の皆様のお話を聞いて、こういう経緯で具体的に皆さんが御尽力されたというのがよく分かりました。ありがとうございました。

今日は第1回目でありますけども、先ほど、中平委員の方からありましたとおり、早速具体的に考えていただいて、地元でも御意見を聴いていただいてありがたいです。

もっと意見をこの場で各委員の皆様におっしゃっていただきたいと感じたところです。

先ほど御意見がありましたが、民間主体でやるのか公共主体でやるのかというのは全く決めていません。ですから、まず皆さんが跡地にどういった機能をつくって

いったらいいのかというお話も伺いながら、それらを考えていきたいと思えます。

それと、他にもありましたが、約3ヘクタールあって、うち北館が約1ヘクタールです。どこでどういう線引きをするのかという御意見もございました。今から北館の整備を具体的にどうやっていくのかということもございますが、一方で、皆さんがこの南側をどのように使えば地域、あるいは安佐北区全体として良い使い方になるのかという御意見が出たときに、その南側の使い方が浮かび上がってくるのではないかと思います。是非これからそういったところも皆さんの御意見を伺った上で、その方向性をまとめていきたいと感じたところです。

その他、まだ今日は時間がございますので是非様々な御意見をいただければというのが、とりあえずお聞きした中での感想でございます。

児玉委員

本当に皆さん、いろいろな意見を初回スタート時に聴かせていただいて、これからの期待が高まるような感じです。

平成22年に広島市の基本計画というのが策定されまして、その中で今後10年間の区のキャッチフレーズというのが市民の方々の御議論を踏まえて集約されたものとして出ています。

これが「みんなが支え合う自然と歴史の安佐北区」でございます。今、各委員が出された要素がそのキャッチフレーズの中にも反映されていると思えます。

そういうことで、もう既に私たちがそういった広い視野の中で、これまでの安佐北区の自然・歴史、そして今の力を踏まえながら、今を歩み続けているということだと思います。

何が申し上げたいかと言いますと、切れ目のない跡地活用でないといけないという視点だと思います。これは皆さん多分おっしゃっている点の一つだと思います。

将来かなり先に跡地の活用は具体化していきますけども、いきなり広い空地になったのではいけないということをおっしゃっていただいたと思っています。

それからもう一つの点は、「みんなが支え合う」という言葉にもあると思えますが、交流の場ですね。安佐北区は、高齢化・少子化が先行的に進んでいる、だから安佐北区での取組というのは広島市の将来への布石にもなりますし、周辺を含めたモデルとなっていく、そういう意味で世代間の交流をいかにしていくかという点も入っているのかなと思えます。

今後ともいろんな材料の方は提供させていただき、対応していきたいと思えますのでよろしくをお願いします。

大島座長

ありがとうございました。

1回目ということで皆さんの思いを言っていただいたように思えます。今の中でもう少し補足等あれば。

尾田委員

可部地区の提言も見させていただいたのですが、跡地活用は、可部地区、白木、高陽、安佐とあるわけですが、やはり地区によって、可部は地元中心の考え方、また、白木、高陽、安佐はちょっと距離的に遠くございますので、可部地区とは違った意見が出てこようと思えます。その辺のところは、私も今安佐地区の方でまとめつつありますが、ある程度、各地区の地元の意見を入れていただいて、また、各地区で違った意見の方向が出てくる可能性も出てきます。

各地区の自治会でも意見をまとめて総合的に意見を集約する必要があるんじゃないかと思えます。

阪谷委員

今の尾田委員のお話しは、既に安佐地域で御意見をまとめている、聴いているということでしょうか。

尾田委員 一部、聴いています。

阪谷委員 ありがとうございます。

大畠座長 今のようなことで、跡地は可部南にあるので、可部中心になると思いますが、やはり安佐北区全体のことを考えていく必要があります。その他の方でももう少し補足等あれば。

次回からやっていく中で、何か宿題をつくってやっていくという方法もありますし、皆さん方は個人の意見もあろうかと思いますが、やはりそれぞれの地域の代表として出たいておられますので、1カ月に1回会合を持つというかですね、それなりに意見を集約してもらおうというのが今後必要であろうと思います。

先ほどありましたように、病院の跡地活用と言いながら、それに関連する交通アクセスの問題も当然出てきます。そういうことも考えていかないといけないと思います。何か他に。

坊会長、可部の中で今までやってきたことの経緯を説明いただければ分かりやすいと思います。もうちょっと時間がありますので。

坊委員 たびたび可部のまちづくり構想の話が出てきますが、最初にこの問題に取り組んだのは、平成26年の4月に我々可部地域の7学区の各地域から4名ずつ出て、28人で構成した第3木曜日の会、三木会と言っていますが、そこでいろんなまちづくりの関係の問題を協議しています。

その中で少子高齢化問題、あるいは人口減少が話題の中心になっており、先ほど座長からもありましたように20年後、(20～39歳の女性人口が半減し将来的に)安佐北区は消滅するのではないかということがマスコミの報道等で報じられました。

これは何とかしないといけないということ、一方で可部線の電化延伸が現実のものとして平成29年の春には開通することになり、それに合わせて安佐市民病院のことも出てきましたので、これはやはり我々としても座しとくわけにはいかない、何らかの行動を起こすべきではないかということで先ほど言いましたような可部のまちづくり構想を考える会というのを各学区から2名ずつ、14名で考えることとしました。

可部のまちづくり構想を考える会の中で、どういった形でやろうかということになったんですけども、最初は皆さんで協議した内容を提言という格好で示した。その時は少し総花的なところ、病院の問題もあるんですが、全体を考えたものとして1回目の提言を行いました。

そうした中、昨年8月の災害に遭いまして、よく最初の案を見直してみると災害に強いというまちづくりの考え方が入っていないということが分かりました。

そこで、やっぱり過去の歴史を考えていく必要がある、可部は大変古い街でございまして、過去にもいろんな災害の歴史を持っています。そういったものも踏まえた上で、やはり何らかのことを考えていく必要があること、そして地域の方々が災害に対する認識も持ったまちづくりを考えるといったことも必要だということで、広島豪雨災害を受けて2回目の提言を行ったわけです。

その中では、可部の全体の歴史を踏まえながら、災害に強いまちづくりをどうすべきかの提言を行いました。

3回目は、やはりどうしても安佐市民病院の問題を避けることはできないという意見になり、先ほど指摘がありましたようにアンケート数は確かに少ないんです。

その時、不特定多数の方々にとくさんアンケートすることが議論の中でもあった

んですが、どうやって対象とする人を選ぶかというときに、最近の名簿等については、プライバシーの関係でなかなか把握することができないため、公にある各町内会会長、PTA会長、老人会会長、いろんな団体が各学区にあるということで、体育協会も含めまして全団体に対して、団体長にその団体の意見をまとめていただけないでしょうかということを出しました。

その時には、地域としてはその考え方に賛同できないという部分もありました。でも、大方の方がそれに対して丁寧に、例えばある町内会では、その地域に回覧をされまして、そして個々の意見も吸い上げてまとめて提出されたところ、それから学区の大きい団体では、その所属する小さい団体の方にまで全部の意見を聴いて出されたところ、いろいろあります。

そのいう中で出していただいたので、大体、主な意見としてはこういう意見が多いのではないかと結論に達したものですから、仮にといい方を付けていますが、そういう言い方で出ささせていただきました。

そして、これをたたき台としていただくように私共としては市の方をお願いをしたわけです。その際には、やはり医療機関というのが1位でした。2番目は民間商業施設、公共施設というのがありまして、3番目が学校というのが出てきたわけですが、幸い上位3案ということになりましたものですから、ほぼ我々の希望通りになったのではないかなというふうに自負をしております。

これからは可部地域の中に7学区ありますが、やはり意見は当然、地元である可部南の意見もありましょうし、それに賛同する学区もありましたが、大筋では5対2という形にはなりましたが、一旦決まった以上は、ノーサイドでやっていこうという方針を決めましたので、そういう形でこれからは可部地域は一致団結してやっていこうと、その中でやはり誰もが思っていることは、あの地域に賑わいがあるものという意見の方が大半でございます。

人が集まる場所、そして賑わいがある場所にしてほしいというのが、大筋の意見でございますし、当然、それを踏まえた交通網の整備を考えてもらいたいということと言われる方、あるいは縦に、要するに広島中心地に向けての道路網は整備されていますが、白木や高陽からのアクセスも十分に踏まえてもらいたい。特に白木、安佐地域とは縦に広島中心地に向けての道路網はできておりますが、この可部に向けての道路網がまだまだ出来上がっていない。そういうことによってこの地域の中心性を高めていき、あるいは高陽を含めたこの地域の両輪としての発展性を考えるべきではないかということが、可部地域の中で言われています。

それを、我々としてまとめたものが最終的な提言書として出させていただいたものです。以上です。

大 島 座 長

ありがとうございました。何か今の意見で思うことがあれば。

地元の可部南さんにおかれましては、先ほど言われましたように可部南も考えるが、安佐北区全体という考え、次回どうしていくかという話もありますけど、地元としての何か補足があれば。

松 井 委 員

地元としては、安佐地区の方から提案がありましたように、地域に戻って、やはり地域の皆さんが跡地にどんなものが望まれるかというのを意見集約してその上で可部自治連の皆さんと提言をもとに深く検討していきたいと思えます。

次回がいつごろに開催されるのか、また、可部地区の町自連との日程を合わせていろいろ検討して、3回目くらいにそういった地域の声が集まっていくのか、2回目では時期が間に合わないのか、そうした思いもありますので一つ時間的な余裕も考えたいと思えます。

と言いますのが、今日の初会合について、どの程度傍聴できるのか、公開の場と

いいながらもどのくらいの広さがあるのか分からないし、皆さんどうしていいか分からない、行ってもいいのかねという御質問が（地元から）ありました。来られてもいいですよ、皆で見守っていいのではないかとということではあったんですけども、蓋を開けてみれば、あれっと思うようなことではあったんですが、たまたま今日はいろんな事業というか行事が重なったこともあるんでしょうけども、決して皆さん関心が無いわけじゃなくて、関心はたくさんあるんですよ。

リーダーだけが突っ走って進めていくのではなしに、一つその皆さんの声を聴いて、やはり地域は地域で皆さんの声を寄せていければと思います。

それともう一つは、団塊世代の皆さんが後期高齢者となるのは2025年、10年後からですね。少子化もあるとなると、それぞれの世代をいかに呼び込むか、そしてそれによって若い人が集まれるようなものは何なのか。人口減少に歯止めをかけるためにも魅力あるものを少し頭をひねってやっていかないといけないんじゃないかなと思います。

例えばですが、広島には広響の常設的なレッスン場がないそうですね。あれだけの管弦楽団がありながら、お気の毒なことながら常設の練習場がない。それを踏まえてホールを兼ねたレッスン場があったら。

隣の緩和ケアとか地域包括ケアのお年寄りたちが、元気を取り戻すための病床である。そこに、練習の日に爽やかな音楽が聞こえるような、そんな夢のある話や、あるいは病院と共有できる広場でもあれば、そうした土地の利用があれば、例えば看護の学生がお年寄りたちを介護できるとか、その上で学生たちは実習ができるとか、医療施設が残るんだから、じゃあそこにはやはり融合できるような施設、夢の夢なんですけど、そこに若者が集まるといって、若い人が、子どもたちがのびのびとそこに集まって、お母さんたちが良かったというようなものが果たしてそれは何かとか、非常に難しいかも知れませんが、とにかく皆さんが夢の夢でも実現できる夢をまとめていったらと思います。以上です。

向井委員

私が思うのは、確かに医療と生活という面においては、荒下にいいものをつくっていいかと、その時に荒下にはヘリポートをつくりますと市長さん言っておられました。

近郊の人はいいかも知れないが、安佐町にしても白木にしても荒下というのは遠い。それがヘリポートができればあつという間に行くことができますよね。これも跡地に持って行って、そんな広い場所があるのではないと思う。ヘリポートを各地区毎につくってもらえば、もう時間かけなくても速やかに荒下にも跡地にも来れるんだという、ちょっと突拍子もないことを言うようですが、やはりそういうのも一つの施設としてあったらいいなと思います。

後はやはり、どの地域も活性化、活力のある地域づくりというようなことをそれぞれに思っておられるだろうし、ましてや今の白木にしても可部、高陽にしても過疎地になっているところでは、農業がだんだん弱体化してしまっている。確かに中平委員がおっしゃっていた地産地消ということ、これ大型でないとなかなかできないと思うところもありますが、今、農家、農地を持っているのは本当に高齢化した者ばかりが、ごく小さな土地でつくっている。

これを何とか換金できないか。過疎地と言っはなんですけど、山間地でつくって自分の家で食べるだけ、あるいは家族、孫を養うだとか親戚に配るだけでなく。ほとんど捨てているといたらおかしいんですけど、せっかくつくったんだからもったいないが、だが換金できる場所がないということなんです。

こういうふうなことも考えたら、先ほど中平委員はそう思っ言われたんだなと思っただんですけど、こういうことは確かに大事かと思っっています。

- 坊 委 員 (提言の中の) 4位の案がそれで、地産地消とあります。
- 向 井 委 員 確かに私も農業をやっていますから。
ただ、これをどういうふうに立ち上げていくかということが大事だと思うんですよ。
- 大 畠 座 長 こういうことを、ずっと議論をしながら最終的には跡地ということに戻ってくる
かもしれませんが、やはりいろんな思いを出してもらって、それを議論することによ
って安佐北のまちづくりということになろうかと思えます。
先ほどから農業の話が出ているので、ぜひ岩重委員からも。
- 岩 重 委 員 私は志屋の方で農業をしています、やはり地産地消、これを道の駅というのが
今、八千代に産直市があって、そこの古市(大町)で元気市を全農がやっています。
非常にお客さんが多い。
八千代さんのところは大規模にやっています。いつ通っても車が数十台は並んでい
ますね。というように、やはり、私も思うのですが、市街化地域の人と農業振興地
域とが共有できて安佐北全体が一つになるような施設、そういうのも一つ欲しんじ
ゃないかなど。やはり近郊から皆さんが新鮮な安全安心なおいしい野菜やいろんな
ものを購入できるような施設も大規模なものが欲しい。小規模ではあんまり意味が
ないと思えますので、2ヘクタールあれば、いろんな施設と兼業してそういう道の
駅というような産直の場も考えて頂いたらいいんじゃないかなというふうに思っ
ています。以上です。
- 大 畠 座 長 いろいろ意見が出ましたが、次は大体いつころ2回目を考えておられますか。
それによって、いずれにしても先ほど言いましたように各地域の代表者ですから
余裕を持ってということで考えると、1月の中旬か下旬でいくべきかと思うんです
が、できればこの場の方にまず聞いてみて、次にどういうことを主に話してみるか
ということもあろうかと思えます。そのあたりどうですか。
- 事 務 局 先ほどから、地域の声をまとめたい、聴いてみたいという意見も出ていますので、
ぜひそういったことはやっていただいて、この場で各地域の声というのは聴かせて
いただきたいと思っています。そのためには時間が必要だということもよく分かりま
す。
もともと最初に申しあげました通り、概ね月1回のペースということで思ってい
ましたので、できれば1月の下旬くらいにでも次を開かせていただければありがた
いなと思っています。その辺は皆さんで御議論いただければと思います。
- 大 畠 座 長 今、皆さんからいろいろ話が出ましたので、ある程度二つ三つに絞ってまずは意
見を聴いてみるということが必要ではないでしょうか。
地元の可部南もいろいろ意見を聴いてみないと分からないと、確かに可部の提言
書で上位三つが圧倒的多数といいながら少数意見も皆さんの意見の中に結構入っ
ている。
例えば、広場とか、やはり学校という選択肢を持ってきたときに、学校と病院と
の高齢者のケアなんかも出てくる。
それらを我々で、この協議会でまとめていくということになろうかと思うんです
ね。次回、こういった形でいいとかいうのがあれば皆さんの方から意見を出してい
ただければと思います。やはり、このことだけは早めに皆さんの意見を集約したい
というのがあれば。
- 尾 田 委 員 ちょっと聞きたいんですが、先ほど再々言いましたように、民間か行政かという

ようなことで、民間主導となりますと土地代といった話も出てこようかと思えます。

南側の跡地、これをいろんな意見の中でこれは民間じゃないとできないというようにときに広島市としたら民間に売却という意向があるのかどうか、その辺のところもある程度聞いておかないと、いくら民間がいいと言ってもこの土地は広島市の土地だから貸さないとかいうことになって困ります。

土地を貸すのか売却するのか民間だとそういった問題も出てこようと思うのですが、その辺のところを広島市として意見を集約してもらえればと思います。

事務局

この土地を民間が使うのか、公共が使うのかということがまずありますが、それについては、先ほど阪谷が言いましたように、今の段階では行政が使う、民間が使うというのは決めていません。

それは、どういったものを入れるかということである程度方向性が見えたらそれによってその施設をつくるのができるのが行政なのか民間なのかということになるかと思えます。

商業系の施設だと行政が手をかけることはできませんので、民間でやっていただくということになります。そのときに土地を売るのか貸すのかということだと思いますが、実はこれは、ここで議論しただけではなかなか結論が出ないと言いますか、やはり民間の事業者に聞いてみないと分からないと思えます。

景気の問題もあるでしょうし、果たしてここに事業として参入するときに、借りるという条件なら参画できるとか、あるいは買うという方が参画しやすいのか、それはその施設の機能がある程度出たところで民間の方にも聞いて、そういうことも踏まえて議論していかないと、実際に事業に参画してくれる方の思い、意向、考え方が大事だと思っています。

大 島 座 長

今の民間にするかそのまま行政がやるか、やはり我々委員の中でそれを調べるわけにもいかないの、その点については事務局の方に任せていいですか。

どういうやり方というのは我々素人には分からないところなので、次回までにそういうのを含めてある程度、何件か当たっていただいて、こういう件がありましたというのを報告してもらおうということにしてもいいですか。

そうしないと、さっきから出ているように民間主導型か、完全に売るか、行政でやるかということがはっきりしないと議論のしようもなくなると思えますので。

それでは、次回にそういう方向を出してもらおうということと、やはり皆さん方もいろいろ地域の意見を聴いていただくことがありますので、皆さんメモもとられていると思いますが、事務局の方でつくられる議事録を見せていただいて、皆さんに地元の意見を聴いてもらうというような方法でいいですか。

それでは、近々、事務局と座長で次回議論する内容を決めますので、次回までに地区内の皆さんの意見を尋ねてもらいたい。

簡単に言いますと、さっき松井委員が言いましたように可部は第3木曜日に会合を持つので、わりかし意見が聴きやすいんですね。

当然、坊会長、私、松井会長も出られますのでそこで議論もできますが、安佐町、白木町、高陽町の方にすぐというのは難しいことと、正月もありますので、事務局からありました下旬ということになれば、20日過ぎということになりますが、それくらいまでにどの会長さんもいいでしょうか。

今日は第1回目なんでいろんな意見が出ました。それを2回目、3回目でやっていきます。皆さん方の思いは、跡地は可部にあるけど、安佐北区全体のことを考えていかなきゃいけないと、特に交通網で広島市中心には行けるけど、横の方の交通網がないと、これはいろんなところで聞きます。

それともう一つは、市長さんの約束で12月中にはですね、市立病院機構が主催

して説明会がありますので、その時にさっきありました2025年に関するものを、市民病院の土手副院長さんから30分ほど説明を聞いて、また、こういう跡地についての話が出るかも知れませんが、北館の運用というようなことがテーマになっています。

ですから北館の運用を理解していただいて、そうすると残りの2ヘクタールをどういう形で運用していくかというのも当然皆さんの頭の中には出てくると思います。

そういう方向で次のときは、そこらあたりのことも踏まえての会合にしていったらいいかと思います。

事務局

今、座長さんの方から言われましたが、次回1月下旬ということであれば、意見の集約が大変かも知れませんが、その段階で出来たもので御聞かせいただければと思います。

先ほど、松井会長おっしゃいましたけども、もし時間がかかるようであれば、まだ次回で終わりではありません。また、意見を発表してもらう場は幾らでもありますので、そういう形でとりあえず1月下旬を目標にやっていただいたらと、それは是非お願いしたいと思います。

それともう1点民間事業者の方は、行政としては（土地を）持っておかないといけないということではありませんので売ることも全然選択の一つではありますが、必ず土地を買うというのは民間業者にとっては厳しいような気がしますので、おそらく貸す方が参画しやすいかと思います。

そのことも民間事業者にどういう条件なら入ってきやすいかということも聴いてみたいと思っていますし、どういった方法で民間の方々に当たっていくか、聞いていくかということこれから考えまして、次回の1月には、どういったやり方ということも含めてお示しできたらと思っています。

また、次回の案内とかこちらの方で改めて準備いたしますので、その時はよろしくをお願いします。

大 島 座 長

その他委員の方から何かありますか。

坊 委 員

2ヘクタールの跡地だけを検討するというのではないと思うので、行政の方も、利用できるような形のものを見ると周辺の状態も考えないといけないと思うので、公開できるような情報などはある程度、ここに出していただいて総合的に考えられるような形にできればいいなと思いますので、その点よろしくをお願いしたいと思います。

事務局

具体的にはこういった情報といったものがありますか。

坊 委 員

例えば先ほどから道路網とかそういったことはたくさん挙げられているので、皆さんの方で知っておられたらいいのですが、この線とこの線は、いつまでにどういう整備をする予定だとか、今の進行状況ということも含めて考えていただかないと安佐北区はもちろんです、安佐南区の方にも影響しますし、そういったことも含めて考えていかないといけないのかなという気がしますので、そういった情報も合わせていただければ検討がしやすいかなという気がします。

事務局

分かりました。情報を整理して次回お示しできるようにしたいと思います。

大 島 座 長

それでは、その他の委員さん意見がないようでしたら、何か事務局から連絡事項などありますか。

事務局 先ほど申し上げましたので特にはありません。

大 畠 座 長 それでは、長時間ありがとうございました。
この委員会（協議会）で一番いいものをつくっていかないといけないと思っています。
常に地元との連絡を密にさせていただいて、安佐北区にある400以上の町内会、自治会をやはりこれだけの方々に見ていただくことは大変だと思いますが、一つよろしくをお願いします。
本日は長時間にわたってありがとうございました。

< 閉 会 >